

令和6年度とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名	本町そよかぜこども園
施設所在地	渋谷区本町6-6-2
法人名	社会福祉法人渋谷区社会福祉事業団

1. 活動のテーマ

<テーマ>

土粘土

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

前年度の園内研修で職員が土粘土を体験した。感触も心地よく、自然素材である事から子ども達に安心して提供できる素材として探究活動に取り入れる。また、じっくりと素材を感じ対話する中で、手先の発達も促していけると考えた。

2. 活動スケジュール

【問いを考える】

「土粘土って何だろう」と素材に触れながら出てきた子ども達のつぶやきから興味関心を拾い、次の問いへと繋げていく。作った物をOHPで投影したり、色をつけたりし、土粘土の特性を楽しみながら探究していく。

【環境をデザインする】

まずは土粘土を大きな塊のまま提供し、素材そのものを感じられるようにする。子どもの様子を見ながら大きさや場所等を変えていく。作った物をOHPで投影したり、色をつけたりし、土粘土の特性を楽しみながら探究していく。

【探究活動を実践し、記録する】

土粘土の重さを感じたり、体の一部をつけ感触を感じたり、臭いを嗅いだり、描いたり五感をフルに使いながら、土粘土を探究する。探究活動の様子は、写真で記録する。

【振り返る・共有する】

活動をした後日にクラス内で活動内容の振り返りを行う。活動時撮った写真を使い、他の子の様子を子ども達と共有する。保護者には、クラス前の掲示で共有する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

子ども達同士でも共有しやすいよう4人程度の少人数でのグループ活動とした。一人ひとりがのびのびと探究できるように十分な空間と時間を保障した。

準備した物：土粘土・シート・雑巾・筆・水入れ・ボール・模造紙・カメラ・パソコン

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

土粘土の粘度や感触、冷たさ、におい等を五感をフルに使いながらその特性を感じ取り探究を進めていく。全身を使って粘土と向き合い造形をしたり、水を加え描画をしたりし探究していった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・大きな塊の土粘土を持ち上げてみたり、頬や肘、足等体全体を使い素材を感じていた。繰り返し取り組む中で土粘土の特性に気がつく。触っているうちに土粘土が固くなることや手に白く粉がつくことに疑問がわく。固くなった土粘土は、足の間に入れて温めると少し柔らかくなることに気がつく面白がって皆で真似をする。手についた白い粉は、水に溶けることに気がつき、絵の具にしたいと絵画活動に広がる。造形グループと絵画グループに分かれて探究を進めた。活動後は、振り返りを行い、次の探究が楽しみになるようにしたり、共有の時間を作りお互いの活動を知らせていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・子ども達が、新しい素材と出会う時に自分の体や五感をフルに使って学んでいく事が分かり、保育者が多くを知らせ過ぎない事の大切さを感じた。土粘土を上から落とすという行動があった時に、通常の保育の中では直ぐに止めて丁寧に扱うように促してしまうが、少人数であった事や探究の時間であった事で保育者の気持ちにゆとりがあり見守ることができた。結果的には、形や高さを変え、音の違いに気がついたり、友だちと協力して一緒に落とす等の楽しい探究となり、静止しなくて良かったと感じた。子ども達の思いを尊重する大切さを痛感し、普段の自分達の保育を顧みる良い機会となった。また、子どものつぶやきを他児と共有し、「どうしてだろう?」「どう思う?」と問いかける事により3歳児なりの思考を知ることが出来、一緒に考える事の大切さを感じた。共有の時間を持つ事で自分もやってみたいと思ったり「こんな風にするのはどう?」と提案しあい遊びが広がっていき、子ども主体の活動となった。